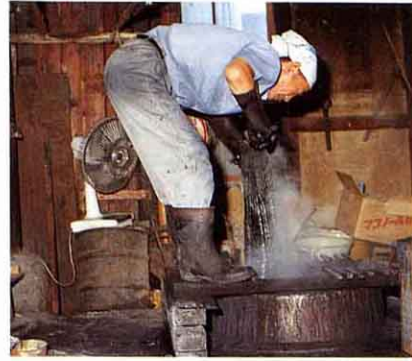


(2) **精練** 購入した綿糸なまいとを生糸せいしよくというが、この生糸を精練するところから染色と織りが始まる。精練とは、生糸についている油をきれいにとるため、1時間くらい煮たあと、よく水洗いをする。染まりをよくするためである。

(3) **染色** 精練して干した糸を人差指ほどの棒に通して、藍がめの中に入れ、上下にしながら、糸をかえしながら藍液に浸す。

さらに竹棒を通し、竹棒と棒をうまく使って糸を一方にねじってしぼる。これを何回もくり返す。



染色

(4) **水洗い** 染めた糸は、水でさっとすすぐ程度に水洗いをする。この水は水道ではなくて井戸の水を使う。

(5) **乾燥** 水洗いをした糸を竹竿たていどに通して乾燥させる。天日乾燥を主とする。この乾燥で緯糸はできあがる。

(6) **糊付け** 経糸たていとに糊付けをする。丈夫にするためである。生麩しょうぶを薄めた糊液を作り、その中を糸をくぐす。湿気がないようにからからになるよう完全に乾燥させる。これが経糸である。

(7) **機織りの準備**

① 経糸巻き 経糸を古くは木のわく、機械織りになってからはボビンに巻きなおす。

② 整経 緯柄せいけいによって、経糸の糸の配列をきめる。

③ 経巻き 経糸をそろえ、機ぐさはたという板をはさんで巻いていき、機織り道具にかけられるようにする。機械織りになってからは機ぐさは必要なくなっている。

④ 綜統そうとう・箴通し 綜統に順序正しく経糸を通す。箴によって経糸を整え、経糸に通した緯糸を打ちつける。

⑤ 緯糸の管巻き 糊付けをしないで乾燥させた緯糸は管くだまに巻いて杼ひに入れる。杼は中管なかくだに巻いた緯糸の間を通す木製の舟型のものである。



機織り

(8) **機織り** いよいよ織る。緯は経糸の並べ方によっていろいろできてくる。

緯糸は平織りひらおの場合、すべて紺である。

(9) **機下しと検査** 織りあがった布をよく検査してはずす。

× 毛